

## 当院における ASC-US の現状

◎安藤 僚祐<sup>1)</sup>、日高 祐二<sup>1)</sup>、諏訪 有香<sup>1)</sup>  
公立学校共済組合東海中央病院<sup>1)</sup>

【はじめに】ASC-US（意義不明な異型扁平上皮細胞）は軽度な異型を示し、軽度扁平上皮内病変（L-SIL）を想定させるが、L-SIL の基準を満たさないものを指している。明確な基準がないため、判定が難しいとされており、日常の診断においても判定に苦慮する場面に遭遇する。今回、当院における ASC-US の現状について検討を行ったので報告する。

【対象】2011年5月から2018年12月までに当院を受診し、子宮頸部擦過細胞診標本にて ASC-US と判定された 85 例を対象とした。

【方法】当院の子宮頸部擦過細胞診標本における ASC-US の割合を算定する。また各症例における HPV 検査の有無や生検組織診断の結果、ASC-US 診断後の当院最終受診歴における病変の推移についても検討を行った。

【結果】2011年5月から2018年12月までの子宮頸部擦過細胞診標本は 26,495 例、内 ASC-US と判定されたのは 85 例で、割合は 0.32%であった。ASC-US と判定された症例の 34 例では HPV の検査が行われ、うち 19 例はハイリスク群陽性であった。また ASC-US 判定後、その後も当院を受診し追跡可能であった 54 例中、約 90%にあたる 49 例は陰性化（NILM）、ASC-US 継続が 2 例（3.7%）、L-SIL・H-SIL に進行したのは L-SIL 2 例（3.7%）、H-SIL 1 例（1.8%）であった。

【考察】当院では人間ドックの婦人科検診により検診検体が含まれているため、全体の陽性率が低下し ASC-US の割合も低値であったと考えられた。また ASC-US 判定後に HPV 検査が行われた半数以上でハイリスク群陽性の結果が得られたので、当院における ASC-US の判定はトリアージとしての役割を果たし

ていると考えられた。

連絡先:058-382-

3101(内線 3204)